

受験番号

2021年度

神戸国際中学校 A－I 選考

国 語

(2021年1月16日実施、50分、100点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

一 次の文を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

人生の中で出会った人、学んだことは本当にたくさんあります。外側から私に降り a 注がれた言葉や b ケイケンなくしては、今の私はありませぬ。中でも個人対個人として語られた対話の言葉は、なぜか私の心の底まで沁みとおろし、私の人格の一部となつて思うように思います。私が大学院に c シンガクしようというある夕方、父と私は、d グウゼンにゆつくりとした時間をすごしました。そのときはもう親子というより、専門分野こそ違うものの独立した道を歩いている人間同士の感覚だったので、私は、①父の話^を友人の話のような、どこか距離のある話として聞いていました。

父はそのころ、大学で高分子化学を専門にする教師になつていて、あの研究のために元素分析室に毎日十二時間以上もこもつて実験していたため、体重を七、八キロも減らし、それでも何かに憑かれたように実験を続けていました。いよいよ最後の実験がもうすぐ終わるといふそのとき、幾重にも注意を払つていたはずの実験器具を落として壊してしまい、その器具が大学には一つしかなかったため、実験を完成させることができなくなつてしまいました。それまで続けてきた実験も②水の泡。神も仏もない、としばらく茫然とした父は、取り返しつかない後悔に打ちひしがれた後、それでも気を取り直し、何かに試されている自分を感じたのだそうです。※思案ののち、父は、大学に出入りしているガラス職

人の住所に見当をつけると、夜も更けた町を何時間か歩いて、とうとうその職人の家を見つけました。

寝静まった家の雨戸を外から遠慮がちにホトホトと叩き続けていると、人の気配がして、電灯の光がつくのが見えました。やがて雨戸をあけて姿を現した職人は、父が差し出したガラスの実験器具の壊れた面を電灯の光の下で、しばらくじつと見つめていたそうです。ややあつて、職人は、「これなら直ります」と言つて、徹夜でその器具を直してくれた、と父は懐しそ^なうに話し続けました。

③天は自らを助ける者を助ける、という言葉は、父のために作られたようだと、そのとき、私は思いました。

私は父に「神も仏もないと思つていたというけど、やっぱり神様はいたんじやない？」と、冗談めかして言うと、父は、真面目な顔をして「姿が見えなかっただけさ」と答えました。酒も煙草ものまず、賭け事もせず、これといった趣味もなく、ただひとすじに研究に打ち込む父の姿を見て母は、「そんなにまでして一つのこと^に打ち込んでいると、退職してから、趣味のない人生になつては困りますよ」と、言っていました。

それに対して父は、「研究が仕事でもあり趣味でもあるからいいさ」とあつげらんとして取り合いませんでした。そして私に、次のように語つてくれました。「お父さんがドイツで勉強していたとき(一九二〇年代末、ドイツではすでに女の人^がたくさん大学で勉強していたよ。日本ではまだ女は女学校に行くのがせいぜいという時代だったから、女も男並みに勉強しているのに驚いて、あるドイツの女子学生に、『日本の女性は※良妻賢母になることを目標にしているけれど、なぜドイツの女性は男並みに、そんなに勉強するのですか?』と聞いてみた。その女性は、何の

※屈託もなく即座に『知る事が楽しいからですよ』と答えてくれた。……本当にその通りだね。新しい知見にぶつかり、謎が解けていき、どこまでも、どこまでも深く知っていくことほど、人生に楽しいことはないからね」

父とのその対話は、いつしか私の心の中に生きものののように、すみついてしまったような気がします。おカネのためでもなく、ただただ真実を極めようと、好きなことに打ち込むことを最高の楽しみとする——人生にとつて、それに代わるどんな楽しみがあるというのでしょうか。④「知ること」のかけがえのない喜びと生きがいを教えてください。親や先生たちが心から感謝したくなります。

なかなか解けない答えを探して、今も私は朝まで本のページをめくって、考え込むことがあります。ベッドの中でふと浮かんでくる知識と知識がぶつかる瞬間の、目から あ が落ちる喜び——我を忘れて没頭するそんな楽しさを教えてくれた本の数々も、私の対話の相手でした。

どんなアクシデントに遭っても、もう一つの道があるはず、と前向きになれる自分を、父からの遺伝かなと、い 思いで父との対話と重ね合わせることもあります。そういう父とは、さんざん火花を散らしてけんかしてきたにもかかわらず……。

戦後、極貧に突き落とされた日本社会では、寒い冬にも暖房はありませんでした。湯たんぼを抱えるようにして明け方まで、隙間風の吹き込む玄関に座卓を移して、父は机にむかっていました。

「知ることほど楽しいことはない。」そう言う父の顔は本当に晴れやかで幸せそうに見えました。

私が親もとを離れて、手紙のやり取りをするようになったとき、

父からの葉書の端っこに「わが心、潑刺とあれ、今日もまた心楽しく」と書いてありました。「これ、なに？」と笑って気にもとめなかった一文をいま思い返すと、おそらく父は、研究する楽しさを私にも伝えたかったのかなと思います。「知ることの楽しさ」から人間を遮断できないことをつたえようとしたのかと思います。

(暉峻淑子 『対話する社会へ』)

※思案：…あれこれと思い悩むこと。

※良妻賢母：…よい妻であり、かしこい母であること。

※屈託：…あることにこだわって、心配すること。

問1 || a & d について、漢字の言葉はその読みをひらがなで、カタカナの言葉は漢字で答えなさい。

問2 — ①「父の話友人の話のような、どこか距離のある話として聞いていました。」とありますが、それはどうしてですか。次の文の空欄に入るように二十字以内で本文中から抜き出しなさい。

私は父と「 _____ 」だったから。

問3 — ②「水の泡」とありますが、これはその実験がどうなったということですか。十字以内で答えなさい。

問4 — ③「天は自ら助けるものを助ける」とありますが、ここでは具体的にどのようなことを指しているのですか。次の語句に続くように六十字以内で答えなさい。

実験の器具を壊してしまって、心がくじけそうになったけれど、

問5 ④『知ること』のかけがえのない喜び」とありますが、筆者の父はこのことについて、どのように語っていましたか、本文中からその一文を探し、最初と最後の五文字を答えなさい。

問6 あ に三音の言葉を入れて慣用句を完成させなさい。ひらがなで書いてもよい。

問7 い に入る言葉として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア いらだたしい イ 晴れやかな

ウ 心苦しい エ くすぐったい

問8 本文の内容と合致するものとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 個人対個人の対話は、生きもののように心の中にすみつき、筆者の一部になっている。

イ 筆者の父は研究のために一心に働き、体をこわすと母が注意してもきかなかつた。

ウ 神や仏の存在を信じない筆者の父は、何でも自分の力で乗り切ろうとした。

エ 筆者は筆者の父の「知ることほど楽しいことはない」という言葉を理解出来ないままでいる。

一 二次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

会社員「熱海」が書いた小説が、念願の小説賞英社新人賞を受賞した数日後の場面である。

「熱海君、ちよつと」先程から①仏頂面をして何かの書類を見ていた課長が、②決心したように呼びかけてきた。

自分の席で小説の構想を練っていた熱海は、「はい」と無愛想に返事をして、課長の机の前に立った。「何ですか」

「君ねえ、このところ成績が悪いよ。会社でぼんやりしないで、外回りをしてきたらどうなんだ」

「今日はまとめなきゃならない報告書があるんです」

「報告書？ そんなことをしているように見えないがねえ」

「考えをまとめていたところですよ」

「考えるだけなら、得意先を回りながらもできるだろう。効率的に働いてくれんかね、効率的に。君がぼんやりしている時間にだって、会社は給料を払っているんだぞ。——何だね、その目は。何か文句でもあるのか」課長は金縁眼鏡の奥から熱海を見上げた。

いえ、と熱海は一回首を振る。ここでこんな男に何かいったところで意味はないと思ひ直したのだ。

「わかったら早く行きたまえ。こうしている間にも、得意先の一つぐらいは回れる」蠅を払うようなしぐさを課長はした。

同僚たちが様子をうかがうように見ると、熱海は営業所を出た。いつもの営業用※ライトバンに乗り込む。エンジンをかけ、荒っぽく発進させた。

なぜこの俺が、と彼は思った。あんな男に指図されなきゃならんのか。あんなふうに罵倒ばとうされねばならないのか。この俺が。新人賞まで受賞しているプロ作家の俺が。

嫉妬しつとしているのだ、と彼は結論づけた。今まで馬鹿にしてきた部下が、突然③自分の思いも及ばぬ高い地位を獲得してしまったため、焦っているのだ。混乱しているのだ。どうしていいかわからんだ。そうだ、そうに違いない。あの男こそ無能なのだ。

道路はいつにも増して渋滞していた。熱海は舌打ちをし、何気なく横を見た。そこに小さな書店があった。若い女性が文芸書の棚の前に立っている。

彼は自分の本がそこに並ぶ様子を想像した。その本を皆が手にとるところを頭に描いた。それは④ぞくぞくするような映像だった。今まで何度こんなふうに夢想したことか。しかし、もう夢ではない。それはすぐ手の届くところにある。

本が売れたら、二千万、三千万の金が入ってくる――。

現在の自分の給料を思い浮かべた。あんな馬鹿上司に怒鳴られ、得意先に頭を下げて、あの程度の金しかもらえない。それならば創作に専念したほうがいいのではないか。

⑤それはこのところずっと考えていることだった。その魅力的な思いつきを、彼は捨てられなかった。

得意先の会社に着いた。熱海が事務所に入っていくと、社長が血相を

変えて立ち上がった。

「おい、あんたつ。だめだよ、あの機械。また壊れちゃった。一体どうなってるんだ」

「えっ、あつ、そうなんですか」

「そうなんですすかじゃないだろう。最新型だっていうから入れたのに、肝心な時に壊れられちゃ仕事にならない。今、おたくの会社に問い合わせてみたら、よそからもクレームが来てる品物だっていうじゃないか」社長は頭まで真つ A にし、唾つばを飛ばした。

俺のせいだよ、といたいのを我慢して、「はあ、すみません」と謝った。

「あんたに勧められて買ったんだからな、あんたが何とかしてくれ。今日中にだ」

わかりましたと答え、熱海は会社に連絡した。ところがサービスの人間は全員で払っていて、今日修理に向かうのは無理だという。

そのことをいうと、社長はますます怒り出した。

「うちは後回しだっているのか。舐なめてんのか。大体あんたがボンクラだから、こういうことになるんだ。何とかしろ」

「ボンクラって……」

「ボンクラだからボンクラだといってるんだ。あんたが担当になってから、ろくなことがない。聞くところによるとあんた、営業所でも成績が最低らしいじゃないか。そんなふうだからだめなんだ」

「……とにかく、もう一度サービスのほうに掛け合ってみます」

「おう、そうしろ。何とかなるまで帰さんからな」

会社に電話をかけながら、熱海は社長の台詞せりふをリピートしていた。ボ

ンクラだと？ この俺が？ 小説灸英社新人賞作家の俺が？

会社のサービス部に繋がった。熱海は再度交渉してみたが、事情は変わらなかった。電話に出た担当者も、忙しさからか、ぞんざいな口調になっていた。

「客をなだめるのがおたくらの仕事だろうが。それぐらいそつちで何とかしろよ、客のいいなりになるだけなら、ただの※木偶でくの坊ぼうにだってできるぜ」

木偶の坊？——熱海がいい返そうとした時には電話は切れていた。

「おい、どうなんだ」後ろから社長が訊いてきた。「何とかなるんだろうな」

「それがすね……」

「だめなのか」

「はあ」

「ばかやろう」社長はそばの机を蹴つ飛ばした。その拍子に、載っていた灰皿が熱海の足の上に落ちた。涙が出るほど痛かった。

それでも社長は罵倒の言葉を吐き続ける。能なし、役立たず、半人前。

⑥熱海の心に小さな穴があいた。それはたちまち大きく広がった。そして何か熱いものが流れ込んできた。

「大体おまえのような人間に営業をやらせているのが間違いだ。いや、雇っていること自体おかしい。おまえなんかはなあ、おまえなんかは……おい、どこへ行く？」

社長の怒鳴り声を無視し、熱海は得意先の事務所を出た。再びライトバンに乗った。

数分して携帯電話が鳴りだした。課長からだった。

「おい、お得意さんをほったらかして、どこにいるんだ」怒りが声に込められていた。

「車の中です」と熱海は答えた。

「車の中だと？ おい、一体どういうつもりだ」

「別に」

「何だと……」部下の⑦意外な反応に課長は絶句ぜっくしたようだ。

「それより課長、お話があります」熱海は淡々たんたんといった。「⑧重要な話です」

(東野圭吾 『線香花火』)

※ライトバン：自動車の型式の一つ。小型の貨客両用車。

※木偶の坊：人形のこと。また人形のように役に立たない人を悪く言う時にも使われる。

問1 — ①「仏頂面」とはどのような顔ですか。最も適切なものを次の

ア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 怒りをおさえきれない顔。

イ 仏のような優しい顔。

ウ 悲しみにくれたような顔。

エ ぶすつとした不機嫌そうな顔。

問2 — ②「決心したように」とありますが、課長はいったい何を決心

したのですか。最も適切なものを次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 部下に成績の悪さを知らせること。

イ 熱海の新人賞受賞を認めること。

ウ ぼんやりしている部下に注意すること。

エ 書類の内容を報告書に書かせること。

問3 ―③「自分の思いも及ばぬ高い地位」とありますが、これはどの

ような地位のことですか。本文中から十字で抜き出しなさい。

問4 ―④「ぞくぞくするような」とありますが、これはどういった感情によるものですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 恐怖 イ 怒り ウ 嫌悪感 エ 喜び

問5 ―⑤「それはこのところずっと考えている」とありますが、熱海はどういうことを考えているのですか。六十字以内で答えなさい。

問6 ―A に色を表す適切な言葉を一語いれなさい。

問7 ―⑥「熱海の心に小さな穴があいた。それはたちまち大きく広がった。そして何か熱いものが流れ込んできた」とありますが、これはどういうことを表していますか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日頃の仕事や得意先の社長へのストレスにより、胃に穴があいてしまい、血が流れ出たということ。

イ 得意先の社長の罵倒によって現在の仕事への気持ちを失い、辞めてやろうという気持ちがわいたということ。

ウ 得意先の社長のあまりの口の悪さに心が深く傷ついてしまい、悲しい気持ちがあふれ出てきたということ。

エ 課長や得意先の社長、サービス部の人間などに対する愛着が失われ、復讐してやろうという気持ちになったということ。

問8 ―⑦「意外な反応」とありますが、課長は熱海がどういった反応をとると予想していたのですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 強い口調で言い返してくる。

イ 無視してくる。

ウ 楽しそうに話してくる。

エ 謝罪してくる。

問9 ―⑧「重要なお話」とはいったいどのような話だと考えられますか。十五字以内で答えなさい。

二次の文のII部の述語にかかる主語を選び、記号で答えなさい。

① ア兄が イピアノを ウ弾き、エわたしが オ歌を 歌った。

② アわたしは イ国語辞典を ウひいて エことばの オ意味を 調べた。

③ ア車が イ突然 ウ走つてきたので エ僕は オ道路の カすみに 寄

った。

④ アわたしの イ目前を ウチヨウが エちらちら 飛んだ。

⑤ ア姉は イ図書館に ウ行ってから、 エプールに 行きました。

四 次のそれぞれの文について、かなづかいの誤りがある語句を文節で探し、正しく直して答えなさい。

① 海に 近くと 潮の かおりが する。

② テニスが 少しづつ 上達して いる。

③ どおか 試合に 勝てますように。

④ あの 人の ゆうことは 信用できない。